## マジックソフトウェア・ジャパン

# 現場のアイデアをモバイルアプリに活かせる超高速開発プラットフォーム

業務系のアプリケーションをモバイルデバイスなどに対応させるための最適な開発環境は、どのようなものだろうか。マジックソフトウェア・ジャパンが提供する「Magic xpa Application Platform」（以下、Magic xpa）は、高生産性と高保守性を誇るビジネスアプリケーション用の開発・実行プラットフォームだ。



マジックソフトウェア・ジャパン株式会社
マーケティング部
課長
渡辺 剛 氏

Magic xpaは、ワンソースでマルチデバイスに対応でき、短い開発期間で、変更や修正が容易なアプリケーション開発・実行プラットフォームだ。基幹業務アプリケーション開発分野で、日本市場でも25年以上の実績がある。クライアント/サーバー、Web、RIA（Rich Internet Application）などのアプリケーション開発が行え、2012年10月からはモバイルアプリ開発にも対応した。しかもモバイルアプリだけでなく、サーバー側のロジックやデータ管理、通信制御などをすべてワンソースで開発・保守できるという特長がある。バックエンド連携が行える「Magic xpi Integration Platform」と組み合わせれば、クラウドサービス/ERPからモバイルデバイス連携まで、一貫した高速開発が行える。

「アプリケーション資産を様々なOSやデバイスに展開でき、アプリケーションの移行が簡単です。また、リポジトリベースで開発・変更したアプリケーションはコンパイルせず即時の実行・デリバリーができるので、短いサイクルで継続的・段階的にシステムを改善し続けるアジャイル開発（スパイラルモデル）に適しています」と、マジックソフトウェア・ジャパンの渡辺剛氏は説明する。

### 詳細な仕様を固めなくても開発しながら修正できる

実際にMagic xpaでモバイルアプリを構築した奏風システムズの赤塚剛氏は、次のように話す。「20年以上 Magicを使い続けていますが、その魅力は少人数で開発でき、その後の修正や機能追加も本当に素早く対応できることです」。

奏風システムズは、長年の顧客であるサンコーより工場の生産実績をタブレットで入力するシステムの開発依頼を受けた。サンコーでは組織横断的プロジェクトチームを結成。両社協力体制の下、開発がスタートした。

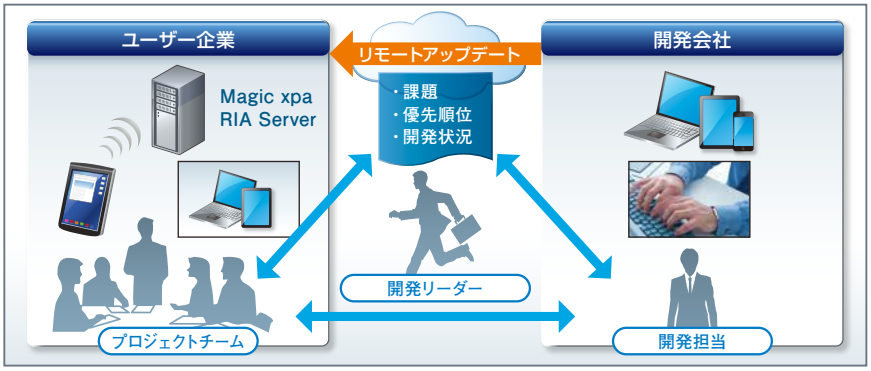


奏風システムズ株式会社
代表取締役
赤塚 剛 氏

両社はMagic xpaの特長を活かし、詳細な仕様を詰めてから開発するのではなく、まずシンプルなアプリを開発。それをプロジェクトチームが検証し、出された要望に対応した改良版を数日後に提供。それをまた検証という活動を繰り返しながら段階的に生産現場へ導入を進め、工場全体で稼働するシステムを完成させた。「お客様と共に検討し問題点を共有しながらシステムを育てていく活動を通じて、プロジェクトチームだけでなくシステムを利用する現場の方々からも、いろいろなアイデアや提案が出てくるようになりました。そんな開発スタイルがモバイルアプリでも実現できるのが、Magic xpaの良さだと思います」（赤塚氏）。

マジックソフトウェア・ジャパンでは、月に2回のペースで実機を使ったMagic xpaのハンズオンセミナーも無償で行っているという。興味のある人は参加してみるといいだろう。

**Magic xpaの特長を活かしたサンコーと奏風システムズの取り組み**
少人数の開発担当でも、プロジェクトチームの要望を取り入れながら修正を行える




お問い合わせ マジックソフトウェア・ジャパン株式会社
URL■ http://www.magicsoftware.com/ja/ TEL■ 03-5365-1600 E-mail■ japan_solution@magicsoftware.com